

科目名	言語教育学特講	担当者	ホサカ トシコ 保坂 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>2001年に公開されたCEFR (Common European of Reference for Languages, ヨーロッパ言語共通参照枠)は、世界中の言語教育に大きな影響を与えている。日本では、CEFRに基づき、英語教育のCEFR-Jや日本語教育のJFスタンダード(国際交流基金)が開発され、さらに文化庁が「日本語教育の参照枠」を策定するなど、日本の言語教育の中軸になりつつある。しかし、日本での受容はCEFRの理念を抜きにしたものであり、ほぼ無批判なものだとの問題提起がなされている。</p> <p>これを踏まえ、本講義では、CEFRをより適切に活用できるようになることを目指して、CEFRの理念と正しい使い方、ならびに、教育現場への導入の事例について理解を深める。そのうえで、日本国内外のそれぞれの教育現場へのCEFRの応用について考察する。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学やその研究に必要な専門性(知識・技能・態度)を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CEFRの理念を説明することができる。 ・CEFRの適用例について評価し、論述することができる。 ・自分の係わる社会や教育現場へのCEFRの適用について提案することができる。 ・CEFRの適用例を収集し、評価し、論述することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioの掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等) ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習)教材の熟読, OERによる自律的学習: 15時間 (自主研究)参考文献の検索と熟読: 10時間 (レポート作成)レポートの作成・レポート推敲: 15時間 (ディベート)掲示板上のディスカッション, ピア・レスポンス(受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 5時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切:6月末(初稿) 前期締切日(最終稿) ・レポート課題2 締切:8月末(初稿) 前期締切日(最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切:10月末(初稿) 後期締切日(最終稿) ・レポート課題2 締切:12月末(初稿) 後期締切日(最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ, 独創性, 構成, 文章表現の妥当性, 引用の適切性等 ★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教師のフィードバックによる書き直し, ピア・レスポンスによる推敲, 最終稿の完成と段階的に進める。 ・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示, 制限文字数(参考文献, 注を除いたもの)を遵守すること。無断引用等, 研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西山敬之・大木充（編） 教材名： 『CEFR の理念と現実：理論編 言語政策からの考察』（くろしお出版，2021） ISBN-13： 978-4874248669 3,000 円+税
	『CEFR の理念と現実』シリーズは、長年 CEFR を研究している編者たちが開催した国際研究集会「CEFR の理念と現実」を基に作成されたものである。上巻である本書は、CEFR の理念に関わる発表を中心にまとめられている。日本において CEFR が無批判に受容されている現状を問題視し、それについて見直し、CEFR の訴える外国語教育の理念の正しい理解と使い方について検討している。
参考図書	奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子『日本語教師のための CEFR』（くろしお出版，2016） ISBN：978-4874247013 各 2,000 円+税 キース・モロウ『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』（研究社，2013） ISBN-13： 978-4327410834 3,200 円+税 Council Europe. <i>Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume</i> (2020) (https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4)
履修上のポイント	CEFR は、日本では共通参照レベルや Can-do リストなどツールの側面に焦点があたりがちであるが、本講義ではヨーロッパ統合の歴史から生まれた複言語・複文化主義などの理念や、複言語・複文化能力などの言語能力観などについて理解を深めてほしい。 参考図書の『日本語教師のための CEFR』は CEFR の入門書と言えるものなので、CEFR についてあまり知識のない受講生はまず最初に読むことを勧める。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。
レポート課題 1	基本教材 1 や参考図書を参考に、CEFR の成立背景や目的、理念、特徴を整理し、言語教育として革新的な点について考察する。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 要点をわかりやすくまとめること。
レポート課題 2	基本教材 1 から 2 つの論考を取り上げて要約し、それを基に、日本社会、あるいは、自分自身が関与する言語教育における CEFR のあるべき使い方について論じる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 海外在住などで他の国に精通している場合は、そこを取り上げることも可能である。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西山敬之・大木充（編） 教材名： 『CEFR の理念と現実：現実編 教育現場へのインパクト』（くろしお出版，2021） ISBN-13： 978-4874248676 3,000 円+税
	『CEFR の理念と現実』シリーズの下巻である。本書では、教育現場という現実において CEFR がどのような効力を発揮したか、どのような限界を示しているのかについて論じられている。取り上げられた事例は、日本語教育やフランス語教育など単一言語の現場だけではなく、多言語環境における言語学習の現場も含まれる。
参考図書	細川英雄・西山教行（編）『複言語・複文化主義とは何か—ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ—』（くろしお出版，2010 年） ISBN-13： 978-4874245057 2,400 円+税
履修上のポイント	CEFR の理念が活かされているかという観点から、各事例について検討してほしい。CEFR の複言語・複文化主義という理念に特化した場合、参考図書に約 10 年前の事例が掲載されているので、そちらも参考にしてほしい。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、第二言語習得に関する理解を深めること。
レポート課題 1	基本教材 2 や参考図書から、2 つ以上の論考を取り上げ、教育現場への CEFR 導入の効果と限界についてまとめ、自分の教育現場への適応について論じる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 自分の教育現場がない場合は、日本の英語教育などに置き換えることも可能である。
レポート課題 2	日本語教育における CEFR の活用例や適用例に関する記事・論文を 1～2 編取り上げ、CEFR の理念に沿うものになっているかについて分析して考察する。（3,000 字～5,000 字） 留意点： CEFR の日本語教育における活用例の記事・論文が見つからない場合は他の言語に置き換えることも可能である。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 4 回	教材の学修：参考図書
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章～第 3 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章～第 6 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章，第 9 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 9 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 10 回	CEFR 適用例の検討
第 11 回	CEFR 適用例の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成